



令和2年(2020年)第21週 2020年5月18日(月)~2020年5月24日(日)

熊本市 感染症発生動向調査 速報

動物愛護センター
ホームページ

●狂犬病について

令和2年5月22日、フィリピンから来日後に狂犬病を発症した輸入感染例が静岡市で報告されました。遺伝子検査および本人の聞き取りから、令和元年9月頃、フィリピンで狂犬病に感染した犬にかまれたことにより、感染したと推定されています。

◆どんな病気?

- ・病原体…狂犬病ウイルス
- ・感染動物…すべての哺乳類(アジアでは犬が主な感染源、他に猫、コウモリ、キツネ、アライグマなど)
- ・感染経路…主に感染した動物による咬傷の部位から、唾液に含まれるウイルスが侵入。通常、ヒトからヒトに感染することはなく、感染した患者から感染が拡大することはない。

・発生状況：日本、豪州、英国、スカンジナビア半島の国々など一部の地域を除いて、全世界に分布
世界の発生状況(WHO、2017年)年間の死者数推計 59,000人(うち、アジア地域35,000人、アフリカ地域21,000人) **日本における発生状況**※1957年に猫での発生を最後に動物での発生はない。

※1970年に狂犬病発生地(ネパール)を旅行中、犬に咬まれ帰国後発病、死亡した輸入症例が1例。
 ※2006年に狂犬病発生地(フィリピン)を旅行中、犬に咬まれ帰国後発病、死亡した輸入症例が2例。

- ・潜伏期間…通常1~3ヶ月程度だが、長い場合には1年以上の場合もある。
- ・臨床症状…①前駆期；発熱、食欲不振、咬傷部位の痛みや掻痒感②急性神経症状期；不安感、恐水及び恐風症状、興奮性、麻痺、幻覚、精神錯乱などの神経症状③昏睡期；昏睡(呼吸障害によりほぼ100%が死亡)
- ・治療…発病後の有効な治療法はない。



◆流行地域に渡航する際の注意点は?

- ・**むやみに動物に手を出さないようにしましょう!!** 万が一、滞在中に犬などに咬まれた場合には、(1)すぐに傷口を石けんと水でよく洗いましょう。(2)現地医療機関を受診し、傷の手当てと狂犬病のワクチン接種を受けましょう。(3)帰国時に検疫所(健康相談室)に申し出ましょう。
- ・狂犬病の流行地域に渡航する場合で、動物との接触が避けられない、または近くに医療機関がないような地域に長期間滞在するような方は、渡航前に狂犬病のワクチン接種を受けることも考えましょう。(予防接種実施機関は、厚生労働省検疫所FORTHホームページの「予防接種実施機関の探し方」を参照してください。)

期 間		2020年 20週		2020年 21週	
		5/11~5/17		5/18~5/24 (最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
<small>(百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました)</small>					
インフルエンザ	➡	0	0.00	0	0.00
RSウイルス感染症	➡	0	0.00	0	0.00
咽頭結膜熱(プール熱)	➡	0	0.00	1	0.06
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	13	0.81	4	0.25
感染性胃腸炎	➡	17	1.06	14	0.88
水痘(みずぼうそう)	➡	3	0.19	1	0.06
手足口病	➡	0	0.00	3	0.19
伝染性紅斑(りんご病)	➡	4	0.25	1	0.06
突発性発しん	➡	11	0.69	11	0.69
ヘルパンギーナ	➡	0	0.00	0	0.00
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	➡	0	0.00	1	0.06
急性出血性結膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)	➡	3	0.60	6	1.20
細菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	➡	1	0.20	0	0.00
マイコプラズマ肺炎	➡	0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	➡	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	0	0.00	0	0.00